

美作大学公開講座「これからの『食』と『子ども』と『福祉』を考える」

平成30年9月22日（土）於：美作大学32教室

現代子ども論

美作大学児童学科 准教授 岡村健太

○哲学から見た学び

知識の網の目モデルと基礎学力

○近年の子どもの特徴

吟味する力 取捨選択する力 etc..

大切なことは、「特徴」をとらえること。マイナスの側面を挙げるのではない。

○近年の子どもの環境と大人の見落とし

子どもの生活環境の変化

2016年度 津山市の小学生スマホ所持率・・・36.1%（使用率71.2%）

2015年度 岡山県の小学生スマホ所持率・・・54.7%（全国21位）

大人は外で遊んできなさいと言うけれど、子どもは外で遊べない。

スマホ利用の結果

遊戯面・・・子どもの遊びが密室化する。

学習面・・・子どもにとって、「教科書の知識」はもはや魅力ではなくなる。

どちらも子どものせいではない。

大前提として、スマホが便利なものであるということは忘れない。

量的な数字による管理の弊害

1日〇〇時間勉強しましょう！

量を見て質を見落とすと、大変な結果を招く。

○今後のコミュニケーションの変化予測

英語教育の導入・・・2020年度から新学習指導要領が実施され、
小学3年生から外国語の授業が実施される。

日本語の変化・・・日本語独特の表現は今後消えていく可能性がある。

ex) A man who doesn't know spoke to me. ←これを日本語に翻訳すると？

○子どもにとっての親

子どもに最も影響を与えうる人物

子どもにとって最も関わっている人物であり、最も自分と比較する人物

「親の背をみて子は育つ」

親のスマホの使い方は子どもに影響し易い。

○親子コミュニケーションの重要性

親子のコミュニケーションの量

子どもがじっくり考える練習

「勉強しなさい！」さて、親は？

○これからの子どもについて考えるヒント

社会の変化の予測・・・加速する変化の速度

それに対して今後求められる能力はどのような能力か

言葉に責任をもつ教育

ex)目標を立て過ぎて、検証が出来ていない状態

素早さが求められる時代。

だからこそ、大人も子どもも、吟味の時間も大切に。